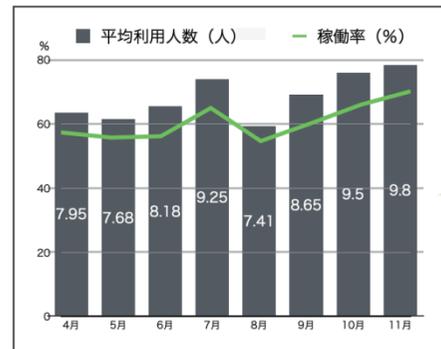




学び合い高めあう

ピッピおやこの広場はっぴい/ここはっぴい
W.Coはっぴい自主研修 11/12
 ～働く価値を確認～

あざみ野・たまプラーザエリアにある一時預かりここはっぴいは、一時預かりのニーズが高いエリアで「いつも予約が取れない」と言われています。スタッフは日々工夫し、なんとか希望に添えるようにと頑張って対応しています。



今年度、定員9人と設定していますが午前のみ午後のみの預かりにも対応し、11月は平均9.8人の受け入れになりました。

この日々の実践をスタッフ全員で共有し、はっぴいで働く価値や意義を見つけることを目的としてスタッフ研修をおこないました。4～5人のグループに分けて7回開催し、スタッフ全員が参加することができました。

ピッピ保育園
全保育スタッフが集まりミーティング 12/24
 事例から学ぶ
 ～より良い保育のために～

ミーティングの準備を始めた頃、静岡の保育所で起こった衝撃的な虐待事件が報道されました。一歩間違えばどこの保育園でも起こり得ることだと、あらためて保育の仕事の重みを感じます。当日はいくつかの参考資料と「気づきの共有シート」で出された事例を元に意見交換。
 “保育室では保育者の声の大きさ、動きも環境の一つ”
 “子どもに関わる上でこれだけは絶対に譲れない、外せないことは?” “私たちが優先すべきは何?” 等を再確認しました。
 スタッフ同士で「その関わり方、おかしいよ」とは言いづらい? ..気づいているけれど黙ってしよう、となって

★『価値発掘ワークショップ』

まずは青葉区のデータやここはっぴいはどんなニーズに込めているの?などの全体像をみんなで共有し、気づきを出し合いました。(オンラインでのワークショップではGoogle Jamboardを使用。付箋に書いて貼る感覚は同じでした。)

はっぴいで変化があったことって何だろう

対話

- ・現在の保育の状況、青葉区の状況を知ることは、日々の業務がどう社会とつながっているかを理解し、大きな目で捉える助けとなる。
- ・自分がやるべき仕事をするだけでなく、共有する大切さ、助け合う大切さ、「ひとりじゃない」ことを学んだ。
- ・話を聞いてもらうことって大事。広場で話をするお母さんたちの気持ちもわかった。
- ・幼児のニュースに敏感になった、街で子連れの人に手を貸そうと思うようになった。

ワークショップではみんな生き生き!話しながら自分の変化・みんなの変化に気づき、ひびき合う。スタッフ同士が深め合う機会の大切さを実感しました。
 (ピッピおやこの広場はっぴい 岡田綾子)

しまう?そうではなくて「大丈夫?何か困ってる?変わろうか?」と声を掛け合おう、それはきっと子どもたちの健やかな育ちに繋がっていく...より良い保育への思いを共有することができ、良い時間となりました。
 (ピッピ保育園 杉本さやか)

りとりピッピ ⇄ ここはっぴい 交流研修スタート!

昨年からりとりピッピでの一時保育が始まったこともあり、同じような環境で0～2歳の子どもを中心に預かる互いの保育を学び合います。私は、これまで他事業所を体験する機会は少なかったため、この機会にお互いを知り意見交換して、子どもたちのためにたくさんの気づきや学びを得たいと思います。
 (りとりピッピ一時保育担当 相原むつみ)

新年に寄せて 「みんなの保育園」をめざします

理事長 若林 智子

昨年は、私たちを取り巻く社会の安全・安心が大きく揺らいだ一年だったのではないのでしょうか。ウクライナ問題は世界経済を大混乱に陥れ、私たちの暮らしや仕事を直撃しました。また、国内外で自然災害が頻発するなど、気候変動の影響からも目を背けることができない状況です。

史上最悪と言われた第9期(2024年～)に向けた介護保険制度改定の議論は、在宅介護の崩壊につながる内容で、私たちの介護事業の存続をも左右する大問題となりました。現場に関わる人たちだけでなく、当事者も含めて「No!」の声を上げたことでとりあえず改悪は先送りされたようですが、まだ予断を許さない状況です。また、次々に明らかにされた保育所での虐待事件が社会に与えた衝撃は大きく、福祉現場にも厳しい視線が向けられています。

これらの出来事は、日々目の前の利用者・家族のケアや生活課題に目を向けている私たちの現場が、広く社会と繋がっていることを教えてくれます。

コロナ禍の暮らしは4年目を迎えました。国の想定を上回るペースで進む少子化や、コロナ禍による預け控えの影響もあり、昨年は、全国の保育所利用児童数が減少に転じました。保育所の定員割れも進んでおり、保育施策は大きな転換点を迎えています。一方で、法人内4事業所が実施する「一時保育」の利用は広がり続け、利用児童の低年齢化も進んでいます。

働いていてもいなくても預かる一時保育という「窓」を通して、子育て家庭のニーズや保育園に求められる役割の変化をつぶさに感じてきた私たちの次のミッションは、名実ともに地域にひらかれた「みんなの保育園」づくりです。

あらためて、全ての現場で「利用者や家族を主体としたケア」を持続的に提供するために、今年もスタッフ一同知恵をしばり努力を重ねていきます。引き続き、よろしく願いいたします。

